

つきたい力

情報の中から必要なものを取り出し、
その情報をもとに文章を再構築する力

取組みの概要・ポイント

- ・説明文教材の学びを生かして、自分の考えや調べた内容を書く教材に絞って、研究を進めてきた。
- ・情報を捉える力をつけるために、「読む」場面において構成図を大事にしてきた。
- ・文章を再構築する力をつけるために「書く」場面と「推敲」場面で、教員による例文の提示を大事にしてきた。複数の例文を示すことで、子どもたちに比較して考え、よりよい文章を書こうと意識させてきた。

①書く系統表の活用

具体的な取組みの内容

②「書く」ための工夫

①系統立てた取組みを意識するために

- 【学習指導要領にある「学習過程と指導事項」を意識した授業づくり】
- 「書く」ために何を大事にして読むのかという目的を意識した授業
 - 「書く」場面や「推敲」場面で大事にしたことを実践を踏まえて共有
 - 「書く」ことに関する系統性をまとめた冊子や学習用語の札を作成

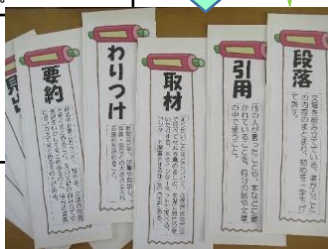
point 「学習過程と指導事項」を意識し、
教材に応じた、支援のための手立
てを考えて、残しておく

point 学習用語の札や系統性
がわかる冊子を準備し、
授業づくりに生かす

○話題の設定、情報の収集、内容の検討		
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。

第3学年 国語 上
光村図書
「こまを楽しむ」

・6つのこまの中から、自分が選んでみたいコマを友だちに伝える文書を書かせる。
・それぞれのこまの特徴を捉えるために、本文に色分けした線を引かせる。



②子どもたちが「書く」ための工夫

- ①書きたいことを整理するために「メモ」を大事にする。
どのような形にすると、子どもたちの思考を深めることができるのか、「書く」ときに必要な部分を取り出しやすくなるのかを考える。
- ②教員による例文提示で、ポイントの意識づけをする。
- ③「書く」ときのポイントを「推敲」するときのポイントにする。

Point①
学習内容や学年に応じた
「メモ」の型を考える



Point③
「書く」際のポイントを考える。
→「推敲」する際のポイントになる

Point②
教師による例文を複数提示することにより、よりよく
「書く」ために意識させたい点を強調する

取組みを通しての子どもの変容

- ◎子どもたちの成長に対する教員による気づきを「うれしいの実」と呼び、学期末に出し合い交流することにした。
- 「難しい課題に対して悩みながらも、自分の思いを表現して書こうとする子が増えた。」「読む相手を意識した文章を書けてきた。」「自分の力で書こうとする意識が見られる。」「既習事項を活かし、どうすれば書くことができるのかを自分で考える姿が見られる。」といった声があがった。
- ◎令和4年度すくすくウオッチでは、〈5年国語〉+5.5ポイント、〈わくわく問題〉5年記述式+5.9ポイント、〈6年記述式〉+6.2ポイントの結果が得られた。

うれしいの
実

